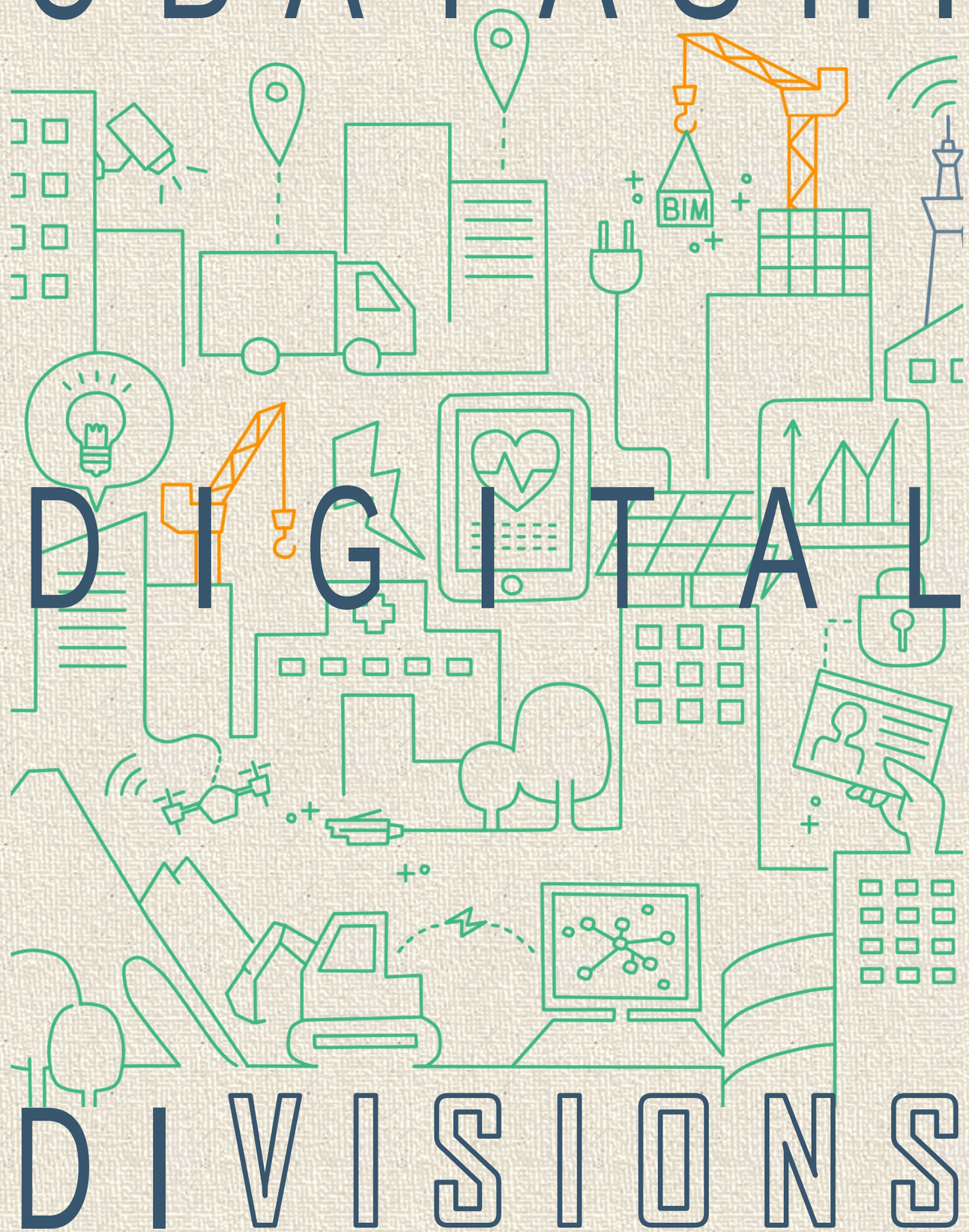
OBAYASHI DIGITAL DIVISIONS



大林組
OBAYASHI

本社　DX本部
〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟
E-mail：ict_recruit@ml.obayashi.co.jp
http://www.obayashi.co.jp

DX銘柄2023
Digital Transformation

建設ＤＸで未来をつくる

建設業は慢性的な人手不足、そして働き方改革への機運の高まりを背景に
これまでの仕事の進め方を見直すことが求められています。

特に近年は、ＢＩＭの普及やデジタルを前提とした業務プロセス変革、
また、ＡＩ、ＩｏＴ、ロボティクス技術の発展もあり、
デジタル技術の活用に今まで以上の大きな期待が寄せられています。

我々は大林組の情報部門として最先端の技術を活用した“ものづくり”と
スマートなワークスタイルを提案し続け、建設業のリーディングカンパニー
として未来を創造していきます。





Contents

05　DX History of OBAYASHI

07　情報部門の紹介

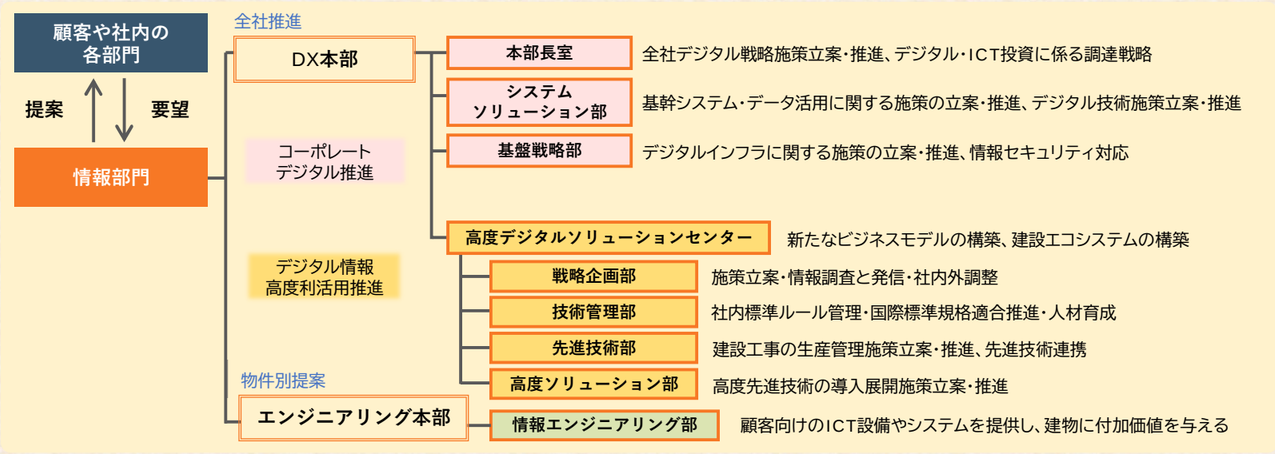
13　社員紹介

15　よくある質問 – FAQ -

DIGITAL History of OBAYASHI

大林組情報部門の役割

大林組情報部門は、多様化する社会や顧客のニーズに応えるため、**常に最先端の情報通信技術を幅広く探求**し、様々なシステム会社のソリューションやメーカー製品を組み合わせ、最適なシステムを構築しています。このため、顧客や社内各部門の要望を具現化するための**企画やプロジェクトマネジメント**を中心とする業務を行っています。このような点が、大林組の情報部門と、他の情報システム会社との異なるポイントです。



1979
東京本社に電子計算センターを設置

（情報ネットワーク部と情報ソリューション部の前身組織）

1995
グローバルＩＣＴ推進室を設置

ICTを重要な経営資源と捉え、国内外のグローバルな事業活動におけるICTの活用を推進（ＩＴ戦略企画室、情報ソリューション部、情報ネットワーク部を統合）

2000
情報エンジニアリング部を設置

顧客のニーズに合った先端ICTを提案し、建物に導入するサービスを提供

2001
iPad3,000台導入

現場で施工管理を行う技術系職員を対象にタブレット端末3,000台を一斉導入

2010
インターネットと電子メールの利用を開始

2011
ＢＩＭ推進室を設置

BIMソフトの本格導入を開始。Build Live Tokyo では最優秀賞を受賞（Build Live Chiba 2012でも最優秀賞を受賞）

2012
IT戦略企画室を設置

情報システムに関する施策の立案と推進を担当

iPad版の配筋検査システムを自社開発

タブレットという新デバイスの普及を見越し、配筋検査業務用のアプリを自社で開発

2013
iPhoneを会社支給の携帯電話として標準化

標準の携帯電話をiPhoneに変更し、モバイルワークスタイルを推進

2017
Office365を導入

同業他社に先駆けてOffice365を導入し、クラウドサービスの利用を開始

デジタル推進室を設置

経営基盤のデジタル化、施工現場を含む生産活動及び営業活動のデジタル化を推進（グローバルICT推進室、ｉＰＤセンターを統合）

2019
DX銘柄2023に選定

DX銘柄2023 Digital Transformation

2020
ＢＩＭ推進室をＰＤセンターへ改組

ＰＤセンターをｉＰＤセンターへ改組

BIMモデルの供給とマネージメント

2022
IoT・AIを活用したビルマネジメントシステム、BIMを活用した建物情報プラットフォームを開発

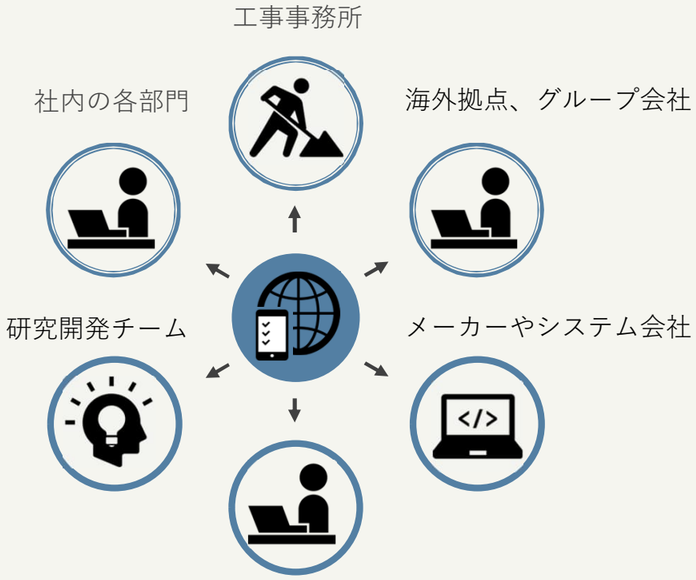
IoT･AI技術を活用してオフィス環境を最適に管理する「WellnessBOX」や、BIMを中核にした建物情報の統合プラットフォーム「BIMWill」を開発

デジタル推進室をDX本部へ改編

2023
ｉＰＤセンターを高度デジタルソリューションセンターへ改編

2025

DX本部



大林グループが目指すDXの将来像

大林グループの目指すDXは、その場限りでなく、近未来の社会環境と建設のありようを見据えた事業施策を策定し、デジタル深化の正道を辿るものでなくてはいけないと考えています。つまり「デジタルありき」で成り立つ未来社会の業務フローをバックキャストで実現するものです。

そのためのデジタル戦略骨子は、収益の根幹を成す「**生産**DX」、生産DXを下支えする「**全社**DX（バックオフィスDX）」、そして全てのデジタル化とDXを担保する「**情報セキュリティの強化**」で構成されています。

生産DXは、具体的にはBPR（**業務プロセス変革**）と顧客提供価値を向上させる次世代建設プラットフォームによるデジタル情報の高度利活用の追求です。**全社的**DXは、生産DXを支える屋台骨としての4本の柱「社内データの統合・活用」、「システムのスリム化」、「業務の自動化・省人化」および「デジタル人材の育成」からなっています。**情報セキュリティの強化**は、ゼロトラストセキュリティの構築と維持、およびサイバー攻撃等に対する継続的なセキュリティ対策です。

DX本部の働き方

DX本部での主な仕事は、建設現場・各部門の課題やニーズを的確に把握してシステム構想を取り纏め、適切なシステム開発会社を選定・発注、要件に見合ったシステムとなるよう調整するとともに、完成後スムーズに社内展開することです。理系・文系を問わず活躍しています。

ここで必要とされるのが、**プロジェクトマネージャー**としてのスキルです。工程や品質、費用の管理はもちろんですが、工程の上流からプロジェクトの方針を決定する「企画力」が求められます。またシステム開発では多くのステークホルダーが関わるため、それぞれの立場の意見を理解し調整する「コミュニケーション能力」も重要です。

また、今後の会社の発展、ＤＸ実現のためには、顧客の潜在ニーズを先取りする必要があります。日々革新が進む新しい技術やサービスについての知見を深め、「技術力」を高めるため、積極的に情報収集に取り組むことも重要となります。さまざまな課題に対し、自らの知見やアイデアを基に最適なソリューションを積極的に提案することが求められます。

DX本部の各部紹介

コーポレートデジタル推進部門

基盤戦略部

～システムとコミュニケーションの基盤～

基盤戦略部には4つの課があります。コラボレーション推進課は、Microsoft社製品・ストレージサービス等共通システムサービスの提供と活用推進、仮想サーバ・IaaS環境の整備等を、通信インフラ整備課は、ネットワーク基盤の整備・運用管理、標準環境推進課は、ICTデバイスやアプリの標準利用環境の整備・運用管理、サイバーセキュリティ課は、全てのデジタル化とDXを担保する情報セキュリティの強化を、それぞれ担っています。

システムソリューション部

～ヒト・モノ・カネの経営資源を管理～

システムソリューション部には3つの課があります。ソリューション企画課は、システムを活用した業務の高度化や生産性の向上、次世代システムの将来像の企画と推進を、データマネジメント課はデータプラットフォーム整備などデータ活用基盤の構築と推進を、システム推進課は、基幹システム開発および稼働環境に関するガバナンスの構築と推進を、それぞれ担っています。

本部長室・業務管理部

～DX本部のコーポレート部門～

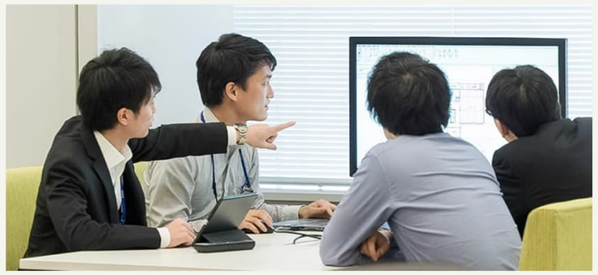
DX本部のコーポレート業務を担う部署です。本部長室には企画部と業務管理部があり全社ＤＸ施策の立案・推進・管理を担っています。また、当社はデジタル教育に力を入れており、同業大手の中では最初にデジタル教育課を立ち上げ、社員を5つの人材タイプに分類し、それぞれの人材に合わせた学習コンテンツを提供する学習フレームワークを構築しています。また、経済産業省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に賛同しています。

高度デジタルソリューションセンター（ADSC）

～つくる・つかう・つながる・かんじる～

2025年度に設立された高度デジタルソリューションセンターは、全社BIM推進部門と、現場デジタル変革支援を担う部門が合体してできました。全社BIM推進部門では、これまでにモデリングルールの策定やBIM部品の整備、BIM教育の実施やモデルの供給支援を行ってきました。現場デジタル変革支援部門では、現場の業務効率化に寄与するシステム開発や、ドローンなど先進的な技術の建設現場への適用検証を行ってきました。

これまでは社内の業務効率化が主要な目標でしたが、今後は培った知見と技術力をもとにデジタルデータの高度利活用を進め、顧客提供価値の向上を目指します。建物ライフサイクル全体の価値を高めるための戦略的企画の立案、データ蓄積・活用ルールの標準化、先進技術の探求と推進、建物価値を高めるデジタルツインの研究を行い、社内社外の様々なデジタル連携技術の結節点としての役割を担っていきます。



執務風景。対面・オンライン問わず、
意見交換が活発に行われる環境です。



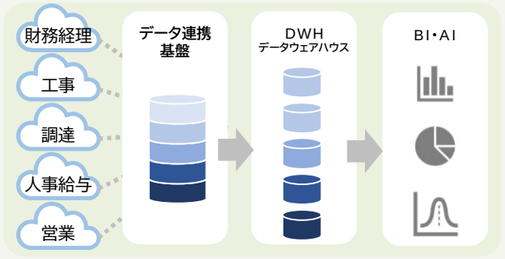
現在の取り組み・これからの取り組み

コーポレートデジタル推進部門

＜次世代システムの構築＞（システムソリューション部）
～データドリブンで未来を拓く～

社内システムとは、企業や組織の中核的な業務を支えるシステム（財務会計システム、人事・給与システム、営業情報システム、調達システムなど）のことです。

ビジネスプロセスの変化に柔軟に対応できるデータ構造への見直しや、クラウド環境への完全移行に着手しています。データガバナンスとデータ活用の更なる高度化の実現を目指します。

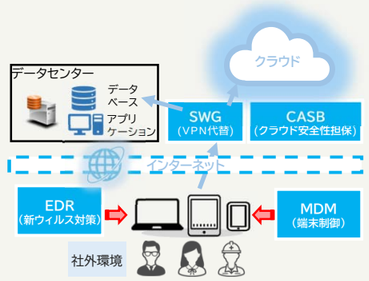


データ活用基盤

＜ゼロトラストセキュリティ＞（基盤戦略部）
～新しい安全性のあり方～

リモートワークに代表される多様な働き方、クラウド環境の利用、多様化するデバイス、そしてサイバー攻撃の脅威の拡大等により、従来の境界型セキュリティ対策の限界が明らかになりました。

大林組は境界型から、情報資産にアクセスするものはすべて信用せずに安全性を検証する「ゼロトラストセキュリティ」への移行を2022年に実施しています。



ゼロトラストセキュリティの展開

＜全従業員のデジタル人材化＞（本部長室）
～データドリブンな教育の提供～

大林組は業界内で最初にデジタルに関する社内教育の専門部署を立ち上げました。当社グループが「ゼネコン」の枠にとらわれることなく成長を続け、事業環境の変化にしなやかに適応しながら、すべてのステークホルダーの期待に応える企業グループへと進化するために、全従業員のデジタルリテラシーの底上げを目指し、有用な学習コンテンツの提供を行っています。



デジタル教育のポータルサイト

＜業務の自動化・省人化＞（本部長室）
～従業員自身によるシステム開発～

IT部門ではない従業員が、ローコードツール等でシステムを開発する「市民開発」が活発になっています。社内教育はもちろんのこと、PowerPlatformによる開発を従業員同士が相互に教えあうコミュニティをオープンし、社内での活用を活性化しています。

自分自身でサービスを開発し、周りに発信していくことで、デジタルリテラシーの底上げと業務の自動化・省人化を実現しています。



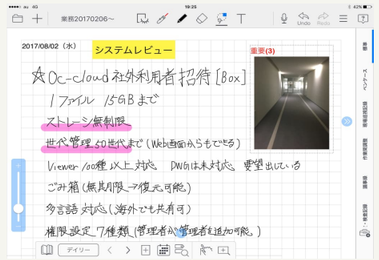
Power Platform 従業員コミュニティ

高度デジタルソリューションセンター（ADSC）

＜eYACHO＞（ADSC）
～iPad一つで、手書きメモから資料作りまで～

大林組は業界内でもいち早くiPadを導入し、様々なアプリを開発してきました。その一つが「eYACHO」です。手書きのメモアプリとして開発された本アプリは、現場に必要な各種書類の作成に活用され、業務のペーパーレス化に貢献しています。

現在ではほぼ全ての現場で活用されています。DX本部ではさらに使いやすいアプリにするため、現場の声を集約し、機能の追加・改善を行っています。



㈱MetaMoJiと共同開発した「eYACHO」の画面

＜ドローンの活用＞（ADSC）
～屋内ドローンによる施工管理～

現在、屋外だけでなくGPSの届かない屋内でも安全に飛行できるドローンの開発が進んでいます。当社では建設現場の安全巡視・進捗確認といった施工管理業務への活用を検討しています。

事務所にいながらドローンを操作して点検業務を行ったり、決められた時間に自動で現場内巡視をしてくれる、といったことが当たり前になる日も近いです。



屋内用ドローンとドローンポート

＜Smart BIM Standard＞（ADSC）
～標準化と建物価値の向上への寄与～

BIMモデルを制作するルールが業界内で統一されていないことにより、一貫したBIMの活用が困難となっていました。設計～施工までのBIM一貫利用に向けて、DX本部を中心に「Smart BIM Standard」（通称：SBS、モデリング標準）を作成し、2023年1月に一般公開しました。

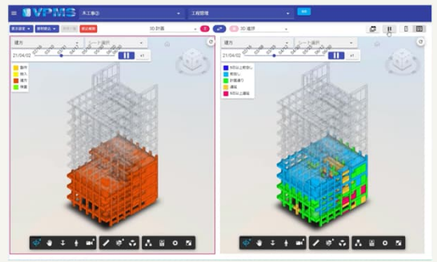
現在も引続き、SBSの浸透と定着に努めており、標準化を強みにBIMの一貫利用と更なる活用展開を推進し、建物に付加する価値を向上させていきます。



「Smart BIM Standard」社外サイトのトップ画面

＜BIMの高度利活用＞（ADSC）
～生産情報基盤の構築とビジネスモデル探索～

ADSCでは、BIMを含めた生産情報を生産性向上だけでなく価値創出の源泉と捉え、デジタルデータの高度利活用を推進していきます。グローバル標準に依拠しながら生産情報基盤を構築し、建物ライフサイクル価値の向上を始めとした新たなビジネスモデルに繋がる施策を実施していきます。従来のBIM情報を活用したアプリケーション開発の知見も踏まえ、将来的にはアプリケーションプラットフォームの提供も視野に入れています。



ビジュアル工程管理システム「プロミエ」

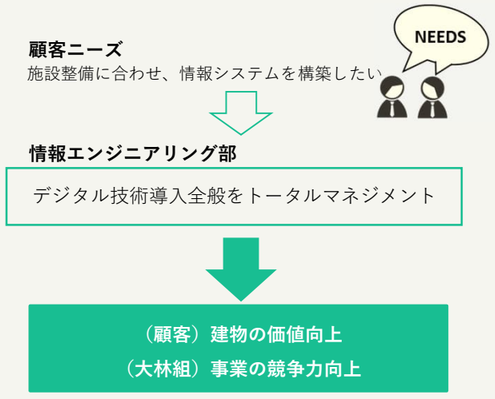
情報エンジニアリング部



デジタル技術導入全般をマネジメント

情報エンジニアリング部は、「建物整備とともに情報システムを構築したい」という顧客のニーズに応えるために設立されました。建物へのデジタル導入を検討している顧客に対し、専門知識を持つ当部が中心となって建物デジタル化の企画から導入までのトータルマネジメントを提供しています。

デジタル技術導入によって建物の価値を高め、顧客や建物利用者に便利で安全・安心な環境を提供することを目指すとともに、社会の高度化・多様化するニーズに対応した建物を提供することによって、本業である建設事業の競争力を向上させることを目指しています。



情報エンジニアリング部の働き方

デジタル技術と建築双方の専門分野に精通する部署として、顧客のデジタルご担当者と設計・施工担当者との橋渡し役を担い、プロジェクトを主導的に推し進めます。顧客への提案からシステム導入時における工事事務所や、メーカーやシステム会社との調整まで、多くの関係者と齟齬なくコミュニケーションをとり、デジタル化のプロジェクトマネージャーの役割を担います。

また、テクノロジーが日進月歩で進化するICTに関する知識・技術を吸収することも重要です。展示会やワークショップに参加して知見を深め、技術開発にも積極的に取り組んで、新たに提案できる技術の開発も行っています。

ゼネコンとしての強み

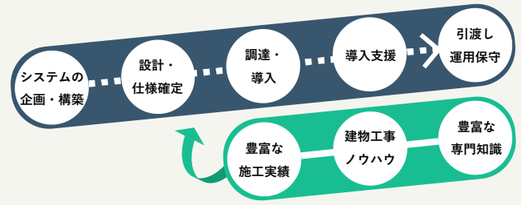
「建物とデジタルの同時施工」、「マネジメント力」が大きな強みであり、デジタル導入を大林組が請け負うことで顧客に次のような付加価値をもたらします。

①窓口の一本化による顧客の負担軽減
②同時施工による全体工期の短縮
③建築と一体となったＩＣＴの提供

現在の取り組み

＜トータルソリューション＞ ～企画から導入まで一貫した ソリューションを提供～

情報エンジニアリング部では、プロジェクト初期段階から企画・設計・施工・運営段階に至るまで一貫して携わっています。豊富な実績・知識と、総合建設業で培ったマネジメント力でトータルソリューションを提供できることが大きな強みです。



＜デジタル技術全般の導入＞ ～システムからインフラまで デジタル全般のソリューションを展開～

主に建物に付随するデジタル全般を手掛け、宿泊施設の客室制御システムや病院情報システム、工場の生産計画システムといった「**情報システム**」、大型LEDビジョンや総合演出システム、会議システムなどの「**映像・音響システム**」、ネットワークや電話などICTの基盤となる「**デジタルインフラ設備**」、セキュリティシステムやエネルギー管理システムなどの「**ビルアプリケーション**」の導入を行っています。

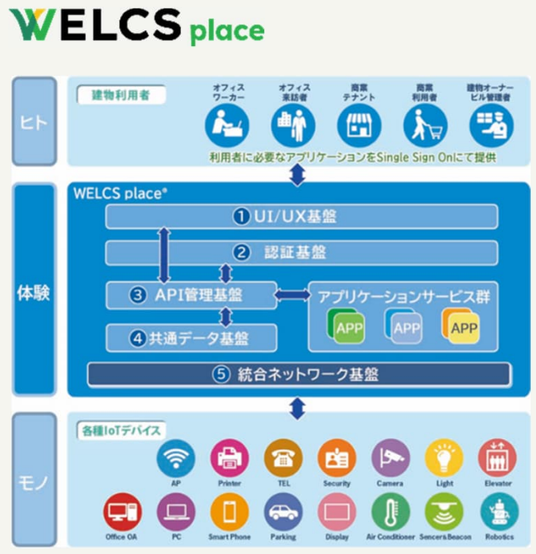


これからの取り組み

情報エンジニアリング部が取り組む施設は多岐にわたります。病院、教育施設、文化・スポーツ施設、商業施設、宿泊施設、オフィスビル、工場など幅広い施設を対象とし、その都度、お客様のニーズや建物環境を考慮した設計を行っています。様々な建物を扱う一方で、最近では建物に共通して、ビル利用者の課題解決にデジタルの力を使うことが求められるようになってきています。「高度なデジタル化に迅速かつ安全に対応できる建物」すなわち「**スマートビル**」のニーズが日に日に高まってきていると言えます。

大林組ではヒト と モノ をつなぐ体験創造をコンセプトに、スマートビルプラットフォーム「WELCSplace」を開発し、ビル利用者に対し、利便性、快適性、安全性など様々な付加価値を提供しています。

建物と一体となりICTソリューションを検討・提案できるのが大林組の情報エンジニアリング部の強みです。今後も建設業界のリーディングカンパニーとして、デジタル化による、建物の価値向上を目指します。



スマートビルプラットフォーム
WELCS place®

Member& CareerStep

1. 職種
2. 出身学部 学科
3. これまでの勤務地
4. 担当する仕事のキーワード
5. 現場で感じた良いギャップ
6. 目標
7. 業務内容およびやりがい
8. 入社の動機

※年次・所属は2017年現在。5〜8はいずれかに回答

大内　泰貴
Ouchi Taiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 福岡
4. コンクリート工事
5. 現場は温かい人が多く、職人さんとの人間関係は想像以上に構築しやすかったです。
   今は現場研修の最中ですが、その中でiPadが手放せないほど役に立つことを実感しました。
6. BIMによるデータ連携を施工性の向上やロボット等の無人化へ活用することが目標です。





野口　傑史
Noguchi Takashi | DX本部iPDセンター

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 千葉（現場）〜東京（PDセンター）
4. BIM、ネットワーク、データベース
5. 資機材の整理整頓が行き届いていることです。
6. より効果的なBIM活用を行うことができるネットワーク環境の構築やデータ管理の仕組みづくりを突き詰めていきたいです。



板倉　崇理
Itakura Takamichi | DX本部iPDセンター

1. 建築
2. 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻
3. 大阪（現場）〜大阪（PDセンター）
   〜東京（PDセンター）
4. BIM、Programming
6. 建設に関する様々なデータを効果的に活用できる、いわば建設版データサイエンティストのような役割を担いたいです。
7. BIM部品の整備やBIMデータ連携手法の検証などを担当しています。様々な人と関わる機会があり、最新の技術で建設の実務を支えていけることが魅力です。
8. 「ものづくりをICTで支えたい」という思いから、大林組が持つ高い技術力に惹かれました。



大杉　達也
Osugi Tatsuya | DX本部

1. 建築
2. 創造理工学研究科 建築学専攻
3. 東京（現場）〜東京（PDセンター）
   〜東京（グローバルICT）
4. HoloLens、iPadアプリ管理、Chatbot、ライセンス管理
6. 将来は建築とICTの面から技術開発やプロジェクトをマネジメントし、既存の枠に捉われないスマートなワークスタイルを作っていきたいと思っています。
7. 若いうちから広く、深くプロジェクトに携わり、引っ張ることができる点です。新しい技術やサービスが世の中に登場すれば、建設業での活用方法を考え、新しい業務改善を主体的に提案、遂行することができます。
8. 「自分が建設業のワークスタイルを変えていっている」というスケールの大きさを実感でき、責任とやりがいを感じています。

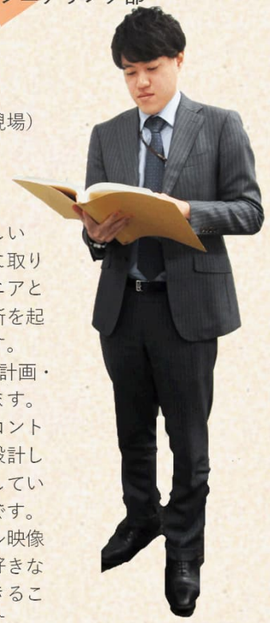


井内　新也
Inouchi Shinya | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. 先進理工学研究科 電気情報生命専攻
3. 大阪（設計）〜東京（現場）〜東京（情報エンジ）
4. 病院ICT設計、プロマネ
6. ICT設計のプロフェッショナルとして、事業性や使い勝手を最大限に向上させるソリューションを設計・導入できる技術者を目指しています。
   現在は、情報や建築への理解を深め、マネジメント力を向上すべく取り組んでいます。
8. 大規模なプロジェクトに主導的な立場で携わることができる点、多くの他分野の方々と関わることができる点に、他の企業には無い魅力を感じました。また、ジョブローテーションや語学教育制度など、社内教育の内容に共感を持ち入社を決めました。

草野　浩輝
Kusano Hiroki | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. システム理工学部
   電気電子情報工学科
3. 東京（設計）〜栃木（現場）
   〜東京（情報エンジ）
   〜大阪（情報エンジ）
4. 国際会議場、銀行
6. 進歩、入れ替わりの激しい情報分野の新技術を常に取り入れ、建設情報エンジニアとして、日本の建築に革新を起こしたいと思っています。
7. 建物へのICT設備導入の計画・設計を主に担当しています。さまざまなメーカーをコントロールし、自ら計画・設計したものを「かたち」にしていくのが一番のやりがいです。
   また、趣味であるホール映像音響設備の導入など、好きなものを「かたち」にできることもやりがいの一つです。



伊東　未奈子
Ito Minako | DX本部

1. 設備（電気）
2. 理工学研究科 開放環境科学専攻
3. 東京（設計）〜東京（現場）〜東京（グローバルICT）
4. 労務管理、IoT・AI
7. 現場で使用するICTツールのマネジメントとIoT・AIに関する調査/研究を担当しています。社内全体の仕事効率化や生産性向上のため、いかにIoT・AIを活用するか、新しい技術やサービスをどう取り入れるか、日々考えています。
8. 歴史に裏付けられた高い技術力だけでなく、先進的な技術も積極的に取り入れていく前向きな姿勢に魅力を感じました。



小間　誠貴
Koma Seiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築学専攻
3. 兵庫
4. 物流倉庫
5. 職人さんには綺麗好きな人が多いです。
6. AIやMRを用いた技術を開発し、生産性向上と業務効率化を実現させることが目標です。
   ICTを必要不可欠な存在にし、建設業界を変革したいと考えています。



古閑　勇祐
Koga Yusuke | 現場研修

1. 設備（電気）
2. 融合科学研究科 情報科学専攻
3. 大阪（設計）〜沖縄（現場）
4. 小学校
5. 職人さんが優しいことです。
6. 社内用アプリのブラッシュアップやBIM機能の拡充に取り組みたいと考えています。



1st year

2nd year

3rd year

4th year

FAQ

01 入社後のステップアップについて教えてください。

みなさんが学んできたことを活かすためにも、大林組の本業である建設事業を知る必要があります。

そのため、建築・設備職は、入社直後に施工管理をはじめとした建設事業の実務を経験し、その後、情報系部門(DX本部、情報エンジニアリング部)で実務を経験しながらトレーニングを行います。

事務職は、入社後、情報系部門で実務を経験し、その後、工事事務所(現場事務)、本社・本支店における情報系以外の部門実務を経験しながらトレーニングを行います。

これらジョブローテーション終了後は、本人の適性や希望によるキャリアプランを基本とした配属になります。

職種	専攻	ジョブローテーション
建築職	建築系、建築工学系	・入社１年目で一級建築士資格取得のため通学 （資格取得可能な方のみ） ・施工管理（現場）の実務を経験 ・実務経験後、情報系部門の実務を経験
設備職	電気設備工学系、 電気工学・電子工学系、 情報通信工学系、 情報工学系、 制御工学・システム工学系、 経営工学系、 数学科、物理学科	・入社後、集合教育を経て、施工管理（現場）の実務を経験 ・施工管理経験後に情報エンジニアリング部に配属され プロジェクトの営業・設計・施工を経験 （この間設備設計、DX本部、その他部門を経験）
事務職	情報系、数理系、文系全般	・入社後、情報系部門の実務を経験 （情報系実務経験後、本社・本支店・現場事務実務を経験）

異なる情報系部門でキャリアを積むことには大きなメリットがあります。デジタル技術という共通軸を基に異なる部門の業務を経験することによって、幅広い視点と知見、および人の繋がりを得ることができます。大林組の情報系部門では、ひとつの部門に固定されることなく、多くの経験を重ねることができるキャリアプランを用意しています。

02 情報系部門の勤務地はどこですか？

情報系部門の組織所在地は現在本社（品川）のみですが、関わるプロジェクトにより日本全国および海外の拠点でも活躍の場があります。

※全国型／拠点型によって勤務地の範囲は異なります。

03 海外勤務のチャンスはありますか？

はい。大林組はグローバルな事業活動に積極的に取り組んでおり、そこでのデジタル活用・展開は欠かせません。技術開発においても、大林組は日本の建設会社として初めて米国シリコンバレーに研究開発拠点「シリコンバレー・ベンチャーズ＆ラボラトリ」を開設し、米国のスタートアップ企業や研究機関と協業して新たな技術の研究開発を進めています。また、2024年にはシンガポールに「Obayashi Construction-Tech Lab Singapore」を開設しアジア地域における次世代建設生産技術の育成・展開拠点と位置づけ、社内外との積極的な連携を図り、建設技術の研究開発を強化を図っています。

このような、大林組のグローバル展開におけるデジタル技術に関わることで、情報系部門の担当者も海外出張や海外勤務のチャンスが大いに広がってきます。

また「海外留学制度」があり、海外の学校や研究機関、企業に留学してキャリアアップに生かすことができますので、是非チャレンジしてください。

04 必要な資格はありますか？

入社にあたって必要な資格はありませんが、情報系職員については入社後職種別に取得が奨励されている重点資格 として、「一級建築士」や「１級建築施工管理技士」「建築設備士」等があります。

また、DX本部では「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」「応用情報技術者試験」の受験、取得に力を入れています。

これらの資格取得時には、受験料、登録料のほか、特に重点資格に合格した場合は、会社から合格祝金や毎月の資格手当が支給されます。

05 「建築」専攻でなくでも大丈夫ですか？

建築を専攻していなくても、ジョブローテーションで実際の建築現場を経験するため、その間に必要な知識は十分習得可能です。大林組では専攻を問わず、多くの社員が活躍しています。